サークル活動による図書館の研究

足利市立第二中学校　嶋　田　早　苗

はじめに

学校図書館が教育課程の展開と人間形成のために寄与し，資料センターとしての機能をじゅうぶんに発揮するには多くの問題点がある。この解決のために市立学校図書館研究委員会でも毎年のように現状を分析し，局面を打開しようと努力を続けてきた。そして，昭和42年の委員会の席上でもっと研究を深めるために「学校図書館愛好会」を作ろうではないかという考えが芽ばえ，当時の川田（藤）先生（2中），木村（吉）先生（山辺中）と私（当時西中）が常任委員だったために発起人となり，5月13日（土曜）に第1回の会合が開かれた。以後，会場は書店の一室を借りたり，各校の図書室を使用したこともあったが，現在は0会館の喫茶店に定着し毎月1回，土曜日の午後3時から5時頃まで定期的に会合が持たれるようになった。出席者も，小学校から参加される先生もあって常時6.7名になる。費用はコーヒー代だけで，当初は，テーマを決めずに会合を重ねたが，昭和42年の7月に学校図書館指導者講習会（栃教委主催）があり，木村先生と私が足利地区の中学校から出席し，また西中の大滝さん（事務職員）が7月末から9月上旬にかけて司書補の講習に参加したこともあって，後記の経過の通り，研究は一段と活発になった。学校の校務分掌の中でも陽の当らない，孤独な仕事を続ける私たち図書館教育係が，自分たちの悩みや疑問点を話し合って解決に努め，励ましあっている事実を多くの方々に知ってほしいという願いをこめて，この記録を公けにする決意をした次第である。

1　活動の経過

(1)　当初は共通の問題点として「事務職員（公費による）採用のため，どう運動すべきか」が話題の中心となった。図書館係の大部分の教師が学級担任であり，教科と生活指導の責任を負い，クラブ活動や各種の行事，会議，補教の合い間に図書整理に当らなければならない，また生徒による奉仕作業もおのずから限界があり，図書委員もまた，進学準備や，クラブ活動，各種行事に追いまわされているといっても過言ではあるまい。このため，つぎの2研究資料(1)の調査を実施し，各方面に理解を求めた。

(2)　昭和42年8月から「学校図書館の諸規定」について研究した。〔2の(2)参照〕

(3)　同年11月から「朝の10分間読書」について研究した。〔2の(4)参照〕

(4)　43年1月から「推せん図書」の研究を始めた。〔2の(5)参照〕

(5)　同年5月から，共通の図書を選び，次回までにその図書を読み，感想や生徒の反応について話しあうことにした。〔2の(6)参照〕

2　研究資料

(1)　学校図書館職員に関する調査（学校図書館事務職員の公費による任用のために）

学校図書館活動を円滑にすすめていくためには事務職員が必要であり，しかも現在採用している学校で引続いて確保することが困難な現状を訴えるため，足利市の小中学校の学校図書館職員―学校図書館係教師と事務職員の実態を明らかにし，各小中学校図書館へ事務職員を公費で任用す

るための資料として木村先生（山辺中）が作成。以下はその統計である。（つごうで解説は省略してある。）

第１表　規模別学校数

学校規模	児童・生徒数	小学校	中学校	学校図書館職員数(学校図書館基準) 司書教諭	事務職員
小規模	450人未満	8	4	兼任１名	１名
中〃	450人以上900人未満	14	5	専任１名	
大〃	900人以上1800人未満	2	3		２名
計		24	12	兼任は授業時数週10時以下	

第２表　規模別，図書館係教師，事務職員の学校数

規模	係教師数	小学校 校数	小学校 専任係	小学校 事務職員	中学校 校数	中学校 専任係	中学校 事務職員
小規模	１名	6校	校	校	2校	校	校
	2	2			1		
	3				1		
中〃	1	2			1		
	2	4	2	2	2		2
	3	6					
	4	2			2		
大〃	3				1		
	4				1	1	
	5						
	6	2	1	2	1		
計		24	3	4	12	1	2

第3表　係主任の司書教諭講習受講

	小学校	中学校
有	6	7
無	18	5

第４表　係主任の週受持授業時数と係の事務時数

小学校 時数	小学校 校数	中学校 時数	中学校 校数
26時	2	22時	
27	2	23	5
28	1	24	1
29	9	25	2
30	4	26	2
31	3	27	1
32	0		
33	1		
記入なし	2		
平均	29	平均	24時

事務時数1週平均	校数 小学校	校数 中学校
1	3	1
2	12	5
3	1	2
4	1	1
5	2	1
6	1	0
記入なし	4	2
平均	2.5時	2.6時

第５表　学校図書館係主任の学級担任数
（　）内は事務職員数

	小学校 小規模	小学校 中〃	小学校 大〃	中学校 小規模	中学校 中〃	中学校 大〃
担任なし	0	0	0	1	1	1
1年	1	2(1)	1(1)	0	2(1)	1
2年	2	2		3	2(1)	1
3年	3	2		0	0	0
4年		5				
5年	1	2				
6年		1(1)	1(1)			
複式	1					
計	8	14(2)	2(2)	3		2

第6表 学校図書館事務のおもな内容

	日常			長期休業中		事務職員がいたら係としてやりたい仕事
	事務職員のいる図書館		いない図書館	事務職員のいる図書館	〃 いない図書館	
	事務職員	係主任	係主任			
1 行事，計画立案実施		2	2	2	1	1
2 会計経理		2	1			
3 PTA図書部		1				
4 選択		1				
5 購入		2		1	3	
6 受入れ整理	6	3	20	5	26	2
7 点検			1	1	2	
8 除籍	1			1	1	
9 修理製本	1		3	2	6	
10 図書以外の資料の整理				1		
11 児童・生徒図書委員会指導		1	2			4
12 調査統計	1				1	
13 広報宣伝		2	1			
14 貸出・返却	4		6	3	2	2
15 事務職員指導		1				
16 利用指導						2
17 読書指導		3		2	3	13
18 環境整美	1		4	1	4	1
19 その他	1					1

第7表 長期休業中の事務を行なう時期と労力

時季	小学校	中学校	労力	小学校	中学校
夏休みだけ	18	6	係教師	15	8
夏・冬休み	1	0	事務職員	4	2
夏・春休み	4	3	児童・生徒委員	12	9
夏・冬・春休み	1	1	他の教職員	11	0
記入なし	1	1	PTA会員	1	0
計	24	12	記入なし	2	1

第8表　現在いる事務職員の勤務条件

学校		A	B	C	D	E	F
採用時の学歴		高校卒	中学卒	高校卒	中学卒	中学校	高校卒
勤務年数		10月	1年4月	1年5月	4年5月	3年	1年
夜学への通学		洋裁学校	高校	短大	短大	高校	
給料月額		12,000	10,000	14,000	13,000	11,000	15,000
期末手当	夏季	有	有	有	有	有	有
	年末	有	有	有	有	有	有
	年度末		有	有	有	有	
その他の手当					新聞手数料(月)1,500円		
昇給規定			1年500円	1年1,000			
給料財源	PTA会費		年162,000	14,000	13,000	1,000	
	図書費	12,000				10,000	7,000
	購買部利益						8,000
	その他				新聞手数料 1,500		
図書費(月)推定		34,000	24,000	22,000	31,000	24,000	22,000

<付記>　この調査報告は各小中学校の校長先生と図書館主任宛に送付され，指導課長と前教育長や教育事務所長も多大の関心を寄せられた。市議会でも検討の上，県会へ働きかけるという意向であった。現在，足利では，小学校に4名，中学校に1名（いずれも私費採用）の事務職員がいるだけだが，栃木県では県立高校全校に事務職員が配置されている。小中校では，佐野，栃木，小山各市が市職員として採用，宇都宮では各校に補助金を交付している。

(2)　学校図書館諸規定（西中）

同校には，「西中の教育」（全職員必携）が既に作成され，その中に図書館教育についても成文化されていたが，事務職員の採用によって運営内容が充実してきたことと図書館係交替を円滑にするため，夏休み中に改定案を練り小冊子にして全職員に配布し図書館活動についての理解を求めた。内容については，すでに市内各校の図書館研究委員に配付してあるし，12ページにも及ぶので，ここでは項目だけにとどめておきたい。　Ⅰ 図書館教育の目標　Ⅱ 方針　Ⅲ 努力点　Ⅳ 運営組織　Ⅴ 事務分掌　Ⅵ 事務規定　Ⅶ 経理　Ⅷ 図書選択基準　Ⅸ 閲覧に関する規定　Ⅹ 貸出しに関する規定　Ⅺ 年間計画　Ⅻ 利用指導計画　XIII 読書指導計画　XIV 付則

(3)　事務職員の研修

昭和41年の調査では全国4万の公立学校で7562人の図書館関係事務職員が働いている。そのうち司書の資格をもつ者は，約400人にすぎない。私費負担で雇われているのは，このうちの3689人。アメリカでは，医学生と同程度の勉強をしなければ図書館員になれないが，日本では高校卒業生のために夏休み中，司書補の講習が開かれ，資格獲得の道が開かれている。これを受講した西中の大滝さんの話では，講義内容は1科目15時間（テスト1時間）で16科目受講することと，テストの点数が60点以上でないと不合格になるというきびしいものだそうだが，60歳を過ぎた婦人をまじえて，朝9時から12時までと，午後1時から4時まで休みのない勉強のあと，試験勉強のため夜まで学習が続けられ，病気のために倒れる者が出たという。一方，司書

教諭の有資格者は全国に34000人もいるのに，ほとんど任命されていないという矛盾がある。

(4) 朝の10分間読書実験報告　　作成者　嶋　田　早　苗（西中）

ア　主題設定の理由

(ア)　読む本を身近かにおく。

(イ)　集団で読書意欲をもりあげるとともに友情を深める。

(ウ)　読書の時間をうみ出してやり，読書量の個人格差を縮める。

(エ)　自習では，さわいだり，問題をやらない者がいる。この欠点を解消したい。

イ　実験方法

(ア)　朝の職員打合せ時間（他の学級の朝学習のとき），マンガ，雑誌，教科書以外の単行本を読ませる。ただし，朝礼のある月曜は除く。

(イ)　集金その他の用件は，すばやく小声ですませる。

(ウ)　読む本は，家庭で読んでもよいように携帯して登下校させる。紛失予防も考えた。

(エ)　ザラ紙の4分の1大の用紙を配り，氏名と読み始めた日，読みおえた日，図書名を書かせて提出させる。なお，この用紙は，しおりの代用にもさせた。

(オ)　実験当初は，図書を持参するのを忘れる者が数名いたが，忘れた場合は，教科書の自習をさせた。

(カ)　他の学級で実施している自習問題は帰りの学活にやるか，家庭学習に任せた。

(キ)　あまり本を読まない者，読書意欲の不安定な者あるいは食わずぎらいの子に意欲を持たせるため，学級内で自分の持っている本を相互に交換させた。本のない者（事前調査で30%）は図書室から借りさせた。

(ク)　実験学級に1年を選んだのは私の担任クラスであることや上級生では週刊誌を持ち込む恐れがあること，読書習慣の早期形成を考えたためである。

(ケ)　授業時間中には，ぜったい内職（読書）をしないように注意した。

(コ)　しおり用紙は，紛失しがちなので，予備を学級の図書委員に持たせておいた。

ウ　実験経過

9月22日　帰りの学活に10分間読書の説明をする。交換できる図書を考えておくように指示。適当な本がない者は図書室の本を利用するようにすすめる。

23日　名簿に，読書予定の図書名を書かせる。図書館の本には○印をつけさせる。

25日　持参した本を交換させ，しおり用紙を配付する。

26日　10分間読書の実験開始。週番だったので巡視したら，かなり静かだった。

30日　ほぼ1週間経過したが，熱心に読書を続けている。1冊読みおえて，新しい用紙をもらいに来る者が続出。

10月　7日　図書館で借りた本の返却期限が切れたが，まだ読み終わっていないのでどうしたらよいか質問が出る。1度返却して，継続借受けるように指示。

11日　実験開始以来，半月になるが巡視する週番の先生の話では，きわめて静かだという。生徒の読了図書延べ30冊。

24 日　　アンケート（無記名）実施

エ　実験成果　以下アンケートによる（在籍男子20，女子21　計41名）

(ア)　これからも続けてよいか。　(イ)　自習問題とくらべてどうか。　(ウ)　勉強のじゃまになったか。……全員が「続けてよい」「読書の方がよい」「じゃまにならなかった」

(エ)　この1か月間で読んだ冊数

1冊未満	男	13	女	2	2冊未満	男 6	女 11
3〃〃	〃	1	〃	5	4〃〃	〃 0	〃 3

(オ)　感想「今まで読まなかったような本を読んだ」　男　16　　女　12

○ (カ)　本を持参するのを忘れた回数

1回　男女各4。　2回　男0，女3。　3回　男2，女0。　4回　男5，女0

○ (キ)　本を1冊よけいに持ってきて重くなかったか。……全員が重くない。

オ　考　　察

実施時期は，図書館利用の盛んな6月，9月，2月（3年生を除く），1月ごろが適当で，毎月1か月，低学年から実施して3年計画で読書習慣の養成が可能だと思う。

<付記>　この実験の結果，西中のほか，一中，三中，山辺中のサークルの先生の担任学級で，いろいろなくふうが加えられ実施された。なお上記の実験クラスは，3学期の2月にも実施した。同校では「読書コンクール」が毎学期行われているが，1学期に2位だったのが，2.3学期とも1位の成績を収めた。またこの実験は，学校図書館指導者講習会における今村講師（新宿落合第二中教諭）の指導によるところが多いが，○印を付けてあるものは実験者独自の考えによるものである。朝の時間に読書活動ができない場合は，ロングの学活で「集団読書テキスト」の活用も有意義である。

(5)　推せん図書の選定

全国学校図書館協議会では，中学生用の必読図書を選定し，各校ではこれらの図書を別置したり，壁に書名を掲示したり，特別のラベルをつけるなどの対策をたてているが，生徒の利用は一部の者に限られているのが実情である。そこで，前記の今村先生の「良書より適当を選べ」という指導に力を得て西中では，つぎのような方針で「読書の手びき」を作成し，新学期に全職員・生徒に配布している。「必読図書」については各図書について簡単な解説をつけ，「推せん図書（西中選定）」に対しては，中学生の発達段階に応じて<1　空想の楽しさを><2　ゆかいな友だちの話>など10項目に分けて書名をあげ，さらに<11　みんなの愛読書>では，全国学校図書館協議会の調査と校内生徒に対する調査をもとにしてもっとも読まれている図書を紹介している。この推せん図書の中には，サークル会員から推せんされた「コロンブス（古田足日著）」「絵本（田宮虎彦著）」「星の王子さま」「世界を救う者（志村武著）＝絶版」「ベトナム日記（小林金三著）」も含まれている。

(6)　課題図書の研究

サークル会員たちも，「何とかして読書をしよう」「生徒に対して自信を持って図書の紹介ができるようになりたい」という熱意から，会合のたびに宿題として共通の図書を選び，研究を重ねている。現在までに，住井すゑ著「橋のない川」，沖縄教職員協会編「沖縄の子ら」，来栖良

夫著「くろ助」，岡田章雄著「日本人の心」，シッペン著「生命の神秘をさぐる」，砂田宏著「道子の朝」がとりあげられた。

おわりに

全国の学校図書館の現状をさぐり，また我田引水にならないために，昭和43年7月29日付の朝日新聞の記事を引用したい。同紙は「ここに政治を（90）」で「生みっぱなしの学校図書館法」を横の見出しとして「教師の熱意が頼り　資金面はＰＴＡまかせ」とかなり真相をつかんだ分析をしている。＜近ごろの学生は，まるっきり本を読まない」と大学教授はなげく。「うちの子は，どうしたらテレビとマンガを忘れてくれるのでしょう」と教育ママはうろたえる。今の教育には〝本を読ませる指導が欠けている〟といわれてから久しい。しかし，現行法では司書教諭は当分置かなくてもよいという付則のために，一般教師に図書係を兼務させるか，私費の事務職員を雇うしかない。だが兼務の先生はよほどの熱意がない限り，図書館教育をなげてしまう＞この現状について，文部省の担当官は＜（司書教諭制度について）「高校は事務職員で，小中学の場合は，44年度以降の研究課題にしたい。また，多くの教育者たちも図書館の必要性は，あまり切実に感じていないし，現場の熱意の盛り上がりも足りない」と述べ，慶応大学の図書館学教授は「教科書中心主義と受験地獄，○×テストの弊害に挑戦できるのは図書館教育だ」と指摘する。現場の教師の声として「先生と父兄の出血サービスというゆがみをなくすのが行政だ。教科書は，ぎっしりつまりすぎているし，指導要領も重くのしかかっている」と反論する。これに対して与党の自民党の考え方は，前衆議院文教委員長の「党としても，いろいろ陳情を受けており，図書館法の大切なことはよくわかっているつもりだ。われわれは議員提案という形で検討している。しかし，他の法案や予算難ということもあるので，具体化は早くても来年後半だろう」という。＞－以上＜＞は同紙から引用－

われわれサークル活動の今後の課題も「図書館への人員配置問題」や「図書費の公費負担」「教師の指導力をもっと強めて行こう」「受験勉強と読書対策」など果てしなく続くことであろう。この記録の終わりに　市教委の時田先生の御指導とサークル活動の会員である，小泉(一中)，高田（三中），木村・飯塚（山辺中），川上・大滝（西中）諸氏の協力に感謝し，今後も図書館教育に関心を持たれる各位の御叱正を希求して筆をおきます。

評

今から十数年前は学校図書館づくりに真剣になって取り組み，図書館に関する研究も掘りさげられ，かなり進歩したように思われたが，昨今の図書館活動は低調であると言わざるをえない。

一方子どもの読書生活も映像文化の影響によるためか，十分とは言いがたく憂慮されている。言うまでもなく図書館は学校全体の教育活動のなかに有機的に位置づけ，その教育的機能をじゅうぶん発揮できるようにしなければならず，そうするためには図書館の運営について研究しなければならない。

嶋田先生の実践記録は図書館研究のサークルを作って数人の先生方と自主的に研究されたものをまとめたものであるが，内容としては図書館の現状とその対策，十分間読書運動，課題図書の選定による読書指導等地味な内容を着実に研究されている点敬服される。

先生方も読書する子を育てるためにこの実践記録を手がかりに読書指導を推進されんことを願うものである。